

議事（2） 在宅医療・介護連携に関する相談支援について

1 函館市医療・介護連携支援センターの概要について 4 p 参照

- ・ 平成28年度「センター準備室」，平成29年度「センター」

2 センター機能の相談支援業務における立ち位置の考え方について

(1) 相談支援の形態 ～ 5 p 参照

電話，訪問，来所，文書，電子メール，協議

(2) 医療・介護連携における課題と解決方策の例 ～ 6 p 参照

(3) 立ち位置の案

ア 市民からの相談対応に関しては，ワンストップの窓口の視点から，コーディネーター（当事者）※¹の立ち位置

イ 医療関係者，介護関係者からの相談対応に関しては，本来は関係者自らの責任において解決すべき事案のため，基本的にスーパーバイザー（助言指導者）またはコーディネーター（非当事者）※²の立ち位置

※1 コーディネーター（当事者）～ 自らの相談事案を，自らの責任においてコーディネートする立場の意

※2 コーディネーター（非当事者）～ 自らの相談事案ではないが，関係者間のコーディネートに介入し，助言指導する立場の意

(4) 参考概念図 7 p 参照

論点 1 相談支援におけるセンターの基本的な立ち位置について

3 センターのその他の機能の内容の検討について

(1) 基本的な考え方

センター機能の内容については、基本的には市・医師会において検討するが、関係者の意見や実態を踏まえ検討する必要があるものについては、部会を設置し検討する。

(2) センター機能と検討主体・検討の場

機能について検討が必要な事項・視点	検討主体・検討の場
ア 多職種による在宅医療・介護連携の支援	
(ア) 多職種連携ルールの確認・普及	
・ 退院支援，退院時カンファレンスのあり方 ・ 急変時の対応ルール，後方支援体制 (救急体制との整合性の整理)	医師会・部会による検討→協議会
(・ 日常の療養支援 ・ 看取り)	(今後検討を要する)
(イ) 情報共有システムの利用促進	
・ ツールの標準化	医師会・部会による検討→協議会
・ ツールの具体的な活用方法	
・ ツール導入後の利用状況把握と検証	
イ 在宅医療に係る研修	
(ア) 医療・介護関係者のための研修会の開催	
・ 研修の企画・立案	医師会・部会による検討→協議会
・ 研修スケジュールの策定	
・ 研修の実施，運営	
(ウ 入院医療機関と在宅の間の連携コーディネート ～ 相談支援機能)	
エ 市民への啓発・市民からの相談	
(ア) 市民への啓発	医師会→協議会
((イ) 市民からの相談 ～ 相談支援機能)	

論点2 部会設置について

1 部会の分野

- (1) 連携ルール 作業部会
- (2) 情報共有ツール 作業部会
- (3) 多職種連携研修 作業部会

2 部会の概要について

- (1) 部会長, 副部会長 ～ 委員の中から選出
- (2) 部会メンバー ～ 部会長, 副部会長と協議のうえ人選
(委員外の参加可能)
- (3) 部会構成員の確定 ～ 次回協議会で提案 (5月の第5回)
- (4) 部会開催時の謝金 ～ 無し

函館市医療・介護連携支援センターの概要について

1 函館市医療・介護連携支援センターの概要

- (1) 設置場所 函館市医師会病院内に設置
- (2) スタッフ 4人体制（看護師1，ソーシャルワーカー2，事務1）
- (3) 実施時期 平成28年度 ～ 準備期間
平成29年4月（予定）～ 本格実施
- (4) 経費概算 約2,000万円（H28）
- (5) センターの業務
 - ア 医療・介護連携に関する相談支援
 - イ 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
 - ウ 地域の医療・介護の資源の把握
 - エ 医療・介護関係者の情報共有の支援
 - オ 医療・介護関係者の研修
 - カ 地域住民への普及啓発
- (6) センター開設時間帯
平日の日中（ただし、時間外・休日対応について別途連絡体制を検討中）

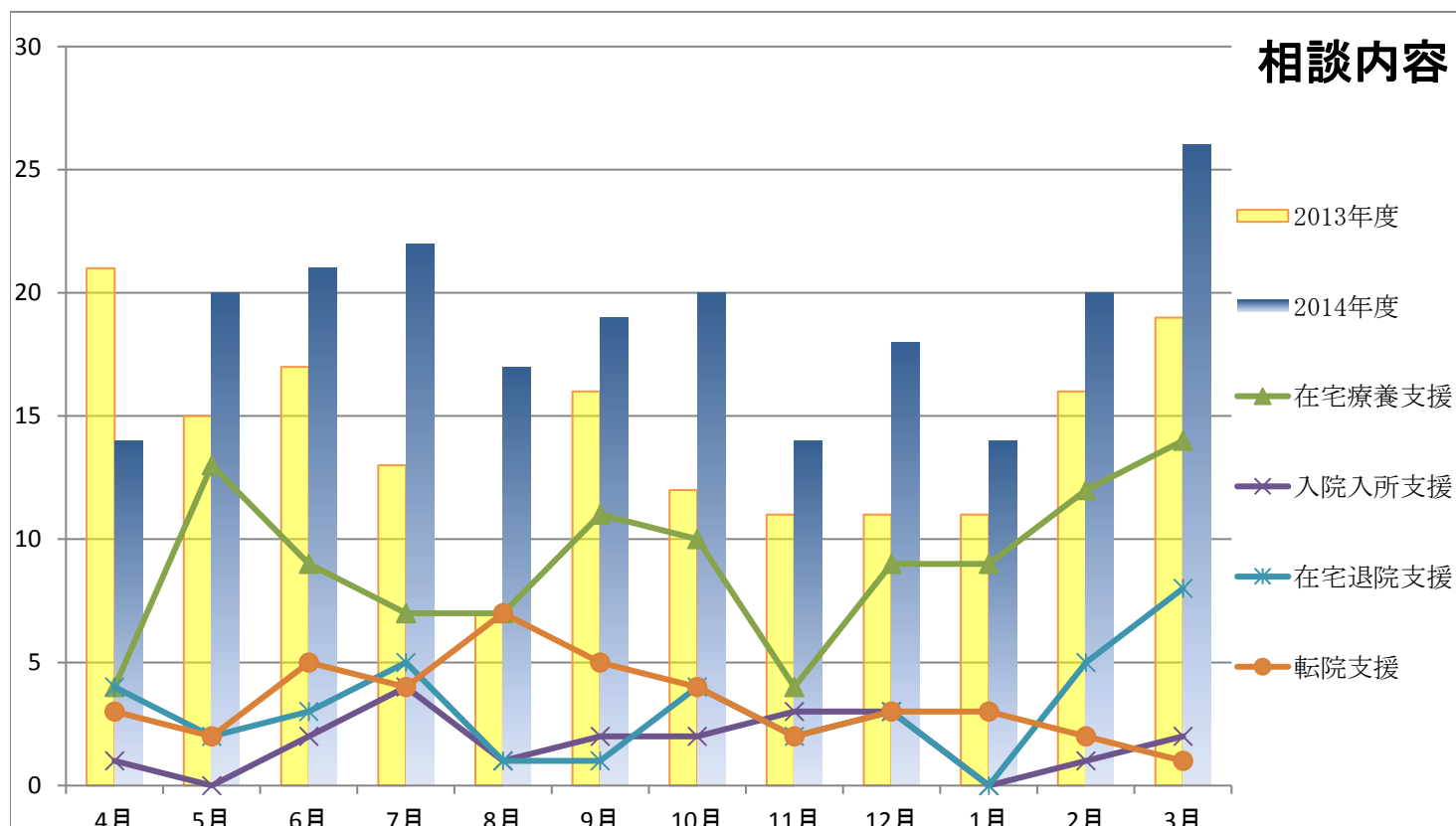
2 今後の方向性

- ・ 医療・介護の実情や仕組みに精通した看護師，ソーシャルワーカーが運営。
- ・ 医療に関する専門的知識を有する者が対応するワンストップの窓口。

豊島区在宅医療相談窓口 実績報告書(2014年4月～2015年3月分)

1、相談件数

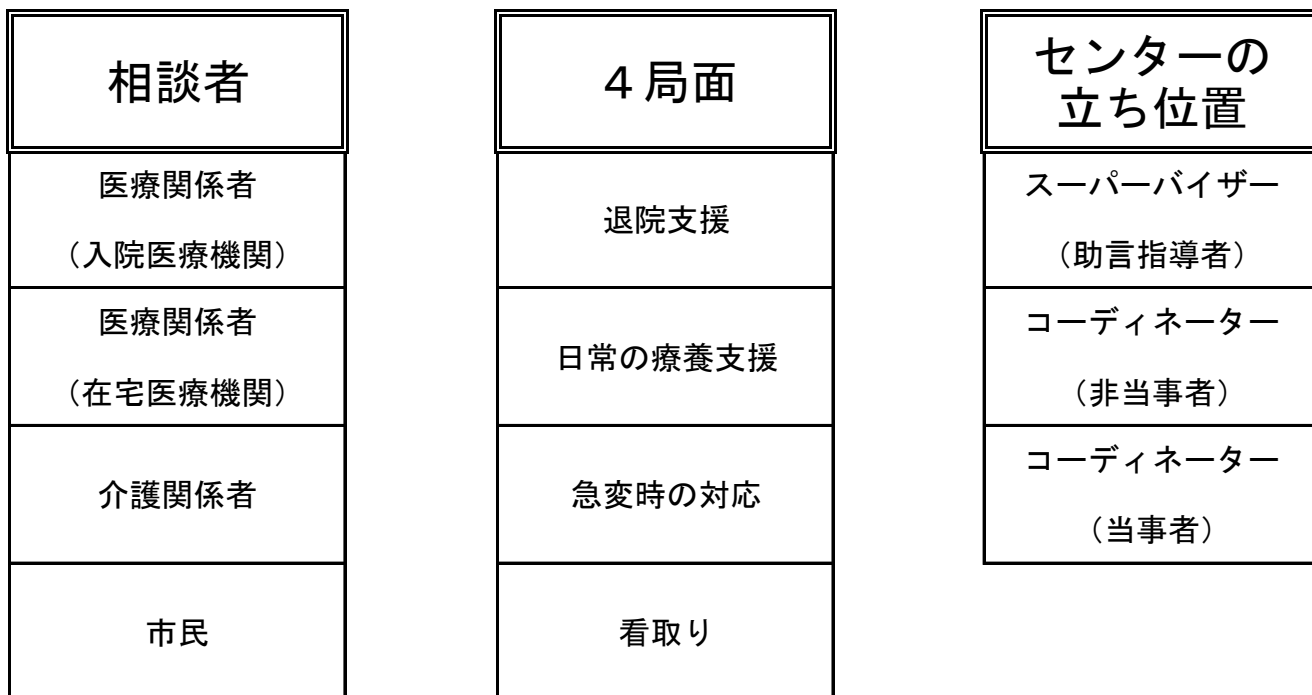
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	ケース数		14	20	21	22	17	19	20	14	18	14	20	26	225
相談内容	在宅療養相談	在宅療養支援	4	13	9	7	7	11	10	4	9	9	12	14	109
		入院・入所支援	1	0	2	4	1	2	2	3	3	0	1	2	21
	退院相談	在宅退院支援	4	2	3	5	1	1	4	2	3	0	5	8	38
		転院支援	3	2	5	4	7	5	4	2	3	3	2	1	41
	その他		2	2	2	2	1	0	0	3	0	2	0	1	15
依頼者	本人		0	1	3	2	2	0	2	1	0	2	0	1	14
	家族		5	2	5	6	6	5	4	2	6	7	10	8	66
	医療機関		2	2	5	3	1	1	6	3	2	1	2	3	31
	訪問看護ST		0	3	0	2	0	1	0	0	1	0	0	1	8
	居宅介護支援事業所		4	6	5	6	5	8	2	3	5	1	6	6	57
	地域包括支援センター		1	3	2	0	2	3	3	2	1	2	2	2	23
	コミュニティソーシャルワーカー		0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	4
	行政		1	1	0	2	0	0	2	0	1	0	0	1	8
	その他		1	2	1	1	1	0	1	3	1	1	0	2	14
業務方法	電話		132	116	124	121	100	151	93	74	92	86	158	167	1414
	訪問		63	14	16	49	19	40	33	23	54	28	9	54	402
	来所		19	22	17	24	16	15	15	10	23	6	11	15	193
	文書		10	9	9	5	5	4	3	5	1	2	10	8	71
	メール		50	33	47	60	26	64	42	26	34	36	51	35	504
	協議		4	3	6	16	1	6	1	1	6	10	12	12	78
	合計(延べ数)		278	197	219	275	167	280	187	139	210	168	251	291	2662



医療・介護連携における課題と解決方策の例

課題の例		解決方策	解決方策の具体例
(1) 医療関係者の抱える悩み			
入院医療機関	在宅医療や介護の環境が整わず、退院の判断に困る。		
	協力してくれる在宅医療機関が不明であり、情報がほしい。		
	在宅医療機関や介護事業所で、どのようなケアを行っているのかあまり知らない。		
在宅医療機関	患者の急変時にスムーズに受入してくれる入院医療機関の情報がほしい。		
	退院のとき、入院医療機関から情報がスムーズに提供されるような統一的な仕組みが欲しい。		
	在宅での看取りへの負担が大きい。		
(2) 介護関係者の抱える悩み		<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護資源に関する情報の収集、整理および活用 在宅医療・介護連携に関する課題の把握およびその解決に必要な施策の検討 在宅医療および介護が円滑に提供される仕組みの構築に向けた具体的な方策の企画・立案・周知 医療・介護関係者間の情報の共有を支援 在宅医療・介護連携に関する相談応需・情報提供・助言 在宅医療・介護連携に必要な知識の習得・向上のために必要な研修の開催 在宅医療・介護連携に関する市民の理解を深めるための普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護資源インフラのリスト・マップの作成、更新 医療・介護関係者への取材による在宅医療・介護連携に関する課題の抽出、情報収集 入院医療機関、在宅医療機関および介護事業所の全市的なネットワーク形成またはコーディネートなど 医師の間のバックアップ体制の構築など 情報共有ツール・システムの標準化・統一化 医療に関する専門的知識を有する者による相談支援窓口の設置 研修のあり方に関する検討、企画、実施 市民フォーラムや講座の開催、啓発パンフレット等の作成・周知
(3) 市民の抱える悩み			
	在宅での医療処置に不安がある。(胃ろう、在宅酸素など)		
	在宅で利用できる医療・介護の制度について知りたい。		
	かかりつけ医がない。		
	〇〇診療科で訪問診療してくれるところを知りたい。訪問看護を利用したい。		
	家族による医療・介護の負担が大きく、もう限界だ。		

○参考概念図 1



○参考概念図 2

※4局面：退院支援，日常の療養支援，急変時の対応，看取り

